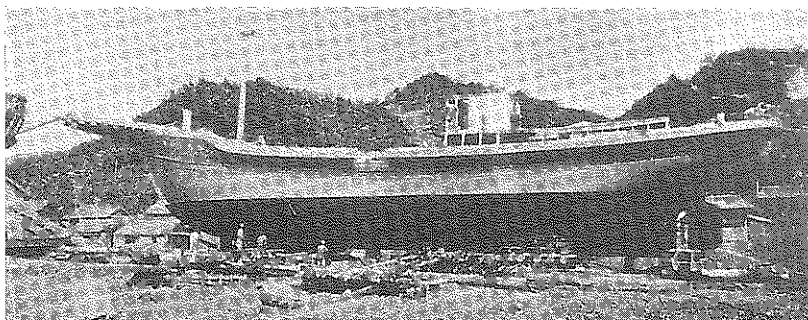
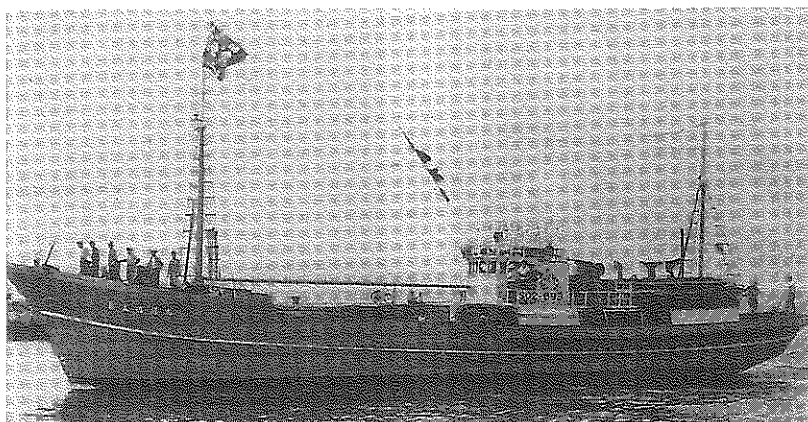


ビキニ事件三浦の記録

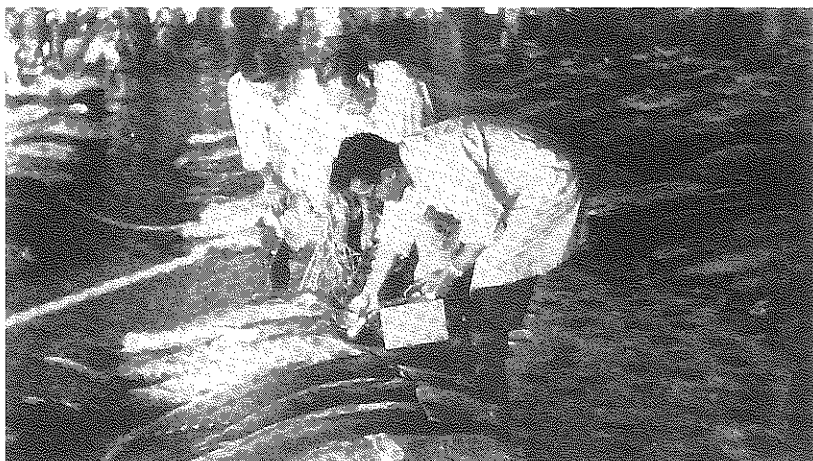




和歌山県・古座造船所で建造中と伝えられる第7事代丸（昭和22年4月進水）。この船が後に第5福龍丸となる。当初カツオ船として作られ、後、マグロ船に改造された。（第5福龍丸平和協会蔵）



マグロ船に改造された第7事代丸は、昭和28年5月に静岡県焼津市の西川角市氏に売却され、第5福龍丸と改名された。この写真は、売却直後に撮影されたものという。第5福龍丸は、翌昭和29年3月1日、ビキニ海域で水爆実験に遭遇するのである。（焼津市歴史民族史料館蔵）



三崎魚市場でのガイガーカウンターによるマグロの魚体検査。昭和 29 年 3 月中旬ごろと見られる。この検査は 29 年 12 月まで毎日続けられた。ここで 100 カウント以上の放射能が検出されると廃棄処分にされた。(小野勝氏蔵)



汚染マグロは地中にも埋められた。
(埋蔵地不明・小野勝氏蔵)



海洋投棄第 1 号となった 13 光栄丸の
投棄作業。厚生省の技官や報道関係
者などが乗り込み、日本中の関心
的となった。(小野勝氏蔵)

はじめに

平成三年第一回三浦市議会定例会の三月十八日の本会議に、本市が「核兵器廃絶平和都市宣言」をすることについて次のように提案しました。

『核兵器を廃絶し、世界の恒久平和を実現することは、世界唯一の被爆国日本の国民共通の願いであり、また、一九五四年のアメリカによるビキニ環礁での水爆実験による被害経験を持つ三浦市民の強い願いでもあります。』

しかしながら、地球上では、先の中東湾岸戦争に見られるように、依然として武力紛争が絶えず、今なお多くの核兵器が製造されており、世界平和と人類の生存に深刻な脅威を与えております。

このような状況にあって、先の本会議において「核兵器廃絶平和都市宣言」に関する決議」が行われたことを受け、ここに非核三原則の完全なる遵守を求めるとともに、あらゆる国の核兵器の廃絶と軍縮を願い、平和都市実現を目指すことを三浦市民の総意として宣言するものであります。』

この提案に対し、議会は、原案のとおり全会一致で可決いたしました。

市はこれを受けて「核兵器廃絶平和都市宣言」を市民の皆様はじめ広くご理解いただくための告示と市の広報「三浦市民」への掲載によって周知を図らせていただきました。

また、これを契機に市議会や市民の皆さんのご意見・ご要望を踏まえて行政としての取り組みを行

うことになりました。

その第一歩として、平成四年に市民の方々の手によるデザイン、彫刻、書、鉄工、石工、鑄造工によって核兵器廃絶平和都市宣言記念碑を市役所の構内に建立しました。

さらに、核兵器廃絶や平和運動の推進に取り組むとともに、核兵器廃絶平和都市宣言をするきっかけとなりました一九五四年のアメリカによるビキニ環礁での水爆実験による被災経験、とりわけマグロ漁業の被害を後世に伝え、平和運動の継続に役立てるため、以前から検討をすすめてまいりました被災状況の把握のための資料収集をすることにいたしました。

漁業を基幹産業とし、海に頼ってきたまち三浦にとって、この水爆実験によりマグロ漁業に影響を受けたことは基幹産業の盛衰に関わることでしたので、資料収集により足元を見詰めた核兵器廃絶や平和運動をしなければならぬ、このような視点で当時の新聞記事、関係者の話などを中心とした調査、取材を行いまとめさせて戴きました。しかし、被災から四十年という時の流れもあり、十分満足のいくまとめが出来たとは思っておりませんが、この調査書をご一読いただき、遠い日々の記憶の中に思い出された事実や新しい情報などをお寄せいただくことにより、今後さらに充実したものにしてまいりたいと存じます。

「海のまち三浦」にとって、世界につながる海の安全、操業の安全確保は何物にも代えがたいことをこれらの資料は物語っていると思います。

ビキニ被災の痛切な思いを伝える人々の高齢化と、事件が年月の経過と共に風化しようとしているいま、被災四十周年、戦後五十周年目の節目の年にあたり、核兵器のない平和な世界を実現するため

の大きな前進の年となることを願うとともに、この調査書に記された事実が後世に引き継がれ、平和のために何らかのお役に立てられることを期待いたします。

なお本調査書をまとめるにあたって、森田喜一氏の協力を得ましたことを申し添え、同氏の努力に感謝を致します。

平成七年十二月

三浦市長

久野隆作